# 令和５年度　甲塚古墳出土遺物の保存修理

平成30年度から国庫補助事業として実施している甲塚古墳出土遺物の保存修理の令和５年度事業が完了しました。令和５年度は須恵器脚付長頸壺、須恵器大甕、円筒埴輪の計３点の保存修理を実施しましたが、そのうち脚付長頸壺の修理について詳しくご紹介します。

**修理前の状況**
割れた状態で出土したものを接合・復元しています。全体の８割程度が残存しています。
発掘調査報告書作成のための簡易的に接合・復元をおこなっていますが、今後の保存・活用に向けて修理を実施しました。

**保存修理の工程**

**①修理前観察、記録**
土器の現状を確認し、修理前の状態を確認するための写真撮影や、外からでは見えない破片の状態やヒビを確認するため、X線透過撮影を行いました。

**②保存修理方針の検討**
文化庁文化財調査官、市の担当職員、委託業者により修理前観察等を踏まえて修理方針を検討・決定します。

**③解体**
遺物を傷めないように既存の補修材の除去を行います。接合部は有機溶剤を使用して接着剤を溶解させたうえで解体を行いました。

**④クリーニング**
断面の接着剤や汚れを竹串等で除去します。表面を傷めないよう拡大鏡を使用して作業を行い、細かな汚れもきれいに取り除きます。

解体・クリーニング後の状況

**⑤再接合、復元**

接合はエポキシ樹脂で行い、復元箇所についてもエポキシ樹脂を使用して復元・整形します。

再接合の状況

復元・整形の状況

**⑥中間確認**

文化庁文化財調査官、市の担当職員、委託業者により修理方針の再確認、復元状況の確認及び彩色等についての打ち合わせを行いました。

**⑦補彩**

復元箇所をアクリル絵具を使用して着色します。

**⑧修理後の確認**

文化庁文化財調査官、市の担当職員、委託業者により修理状況の最終確認を行い、修正が必要な箇所等についての指示をしました。

**⑨修正**

最終確認での修正箇所の修正を行います。

しもつけ風土記の丘資料館キャラクター
「ハニワン」